

2026 年 8 月 26 日

トイプードル 「遅発性運動失調症」の遺伝性疾患検査の必要性と実施について

国立大学法人愛媛大学発ベンチャー
株式会社 VEQTA

株式会社 VEQTA は国立大学法人鹿児島大学と国立研究開発法人理化学研究所が共同で保有する特許「犬の遅発性運動失調症の発症リスクの診断方法(特許第 7850951 号)」の実施許諾を両機関より受けました。

これにより、株式会社 VEQTA はトイプードルの遅発性運動失調症の遺伝性疾患検査を、2026 年 9 月より開始することとなりましたのでご案内およびご報告申し上げます。

トイプードルでみられる遅発性運動失調症は、2～3 歳齢から認知機能障害を、3～4 歳齢から歩行障害から始まる運動失調を発症します。本症状は進行性で治療はなく、通常 5～7 歳齢にて亡くなります。

本疾患は、鹿児島大学および理化学研究所の研究において、X 染色体上の変異が原因であることが判明しました。X 染色体性顕性の遺伝様式をとるため、変異を一つでも保有している犬には発症リスクがあります。また、本疾患は繁殖年齢を過ぎて発症するため、変異を保有する犬が繁殖に使用された場合、次世代に変異が伝わる可能性があります。

発病の可能性のある遺伝子変異を持つ犬の繁殖は、たとえ検査時点で症状が見られなくても推奨されません。

従いまして、トイプードルまたはその交雑種においては、変性性脊髄症(DM)や進行性網膜萎縮症(PRA)と同様に遅発性運動失調症の遺伝性疾患検査を推奨します。

ご質問並びに詳細な症例、将来に向けての治療研究については、株式会社 VEQTA 学術担当(下記)がご対応いたします。

株式会社 VEQTA 獣医学博士 津曲茂久

参考内容

日本国内における人気犬種ランキング (アニコム損保 HP 参照)

<https://www.anicom-sompo.co.jp/news-release/2023/20240129/>